

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 下呂市地域公共交通会議 (岐阜県下呂市)

平成18年12月27日 設置

平成31年 2月12日 下呂市地域公共交通網形成計画策定  
(計画期間：平成30年4月～令和7年3月)

令和 6年 1月19日 令和5年度評価結果送付

## ◆下呂市の概要

●総面積851.21km<sup>2</sup>:9割が山林、市中央を南北に流れる飛騨川に沿って国道41号、JR高山本線が通り、国道256、257号が東西に通じている。JR駅8駅、路線バス事業者1社、タクシー事業者2社が営業

●人口29,545人(R5.11.30現在:現網形成計画策定時2025年(令和7年)に29,783人と想定)

年少人口2,865人、生産人口14,623人、老年人口12,057人(65~74:4,840人・75~:7,217人)

## ◆下呂市地域公共交通網形成計画の目標と方針

1) 将来像:いつまでも市民の笑顔がつづく持続可能な公共交通の確保

2) 基本:①広域及び市内の拠点相互と地域間をつなぐ

方針 公共交通網を形成する。

②地域特性にあった多様な交通手段・運行形態により持続可能な公共交通を構築する。

③市民ニーズに応じて、柔軟な方法で交通サービスを提供する。

④地域づくりの中で多様な施策を進める。

3) 目標:①市内外に行きやすい公共交通ネットワークをつくる。

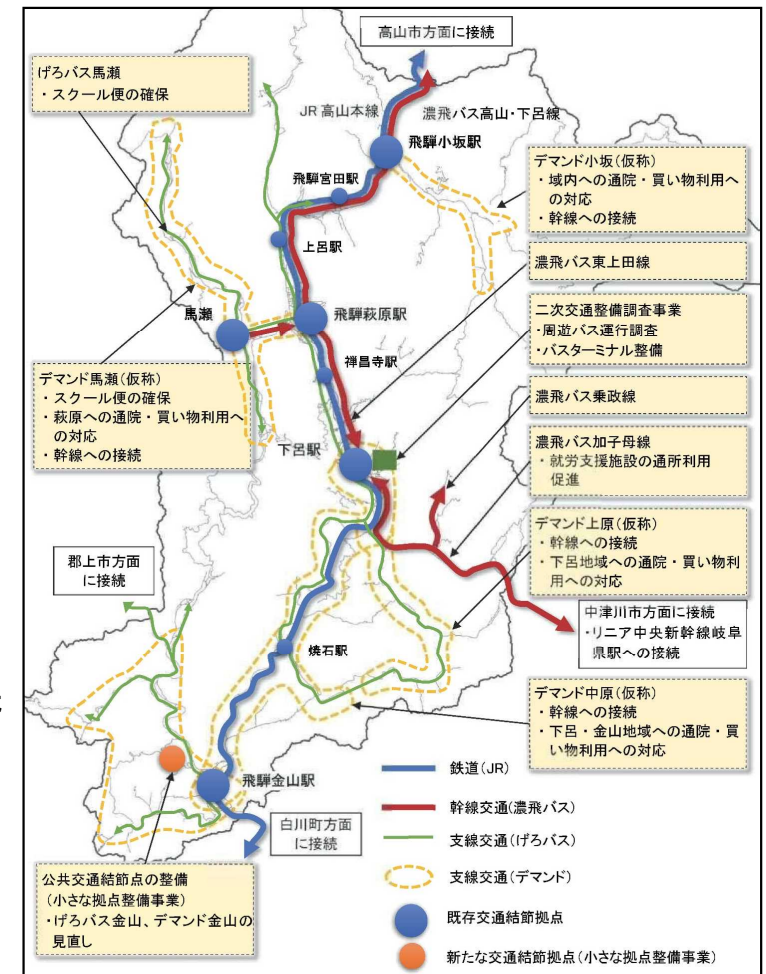
②市民が利用しやすい公共交通とする。

③関連分野(福祉・教育・観光施策)との連携を強化する。

④地域特性に応じた運行形態を検討する等、地域住民・関係者(行政・社協・民生委員等)が一体となり、公共交通の維持・確保を図る。

4) 重点事業:①支線交通の運行形態の見直し

②まめなカー(福祉乗合タクシー)のサービス維持



### ■支線交通の運行形態の見直し

市内路線バス利用者は、通学・通園が半数近くを占めており、その次に買い物や通院目的で利用されている。また、公共交通を利用したくても利用の困難な市民が一定程度あり、今後も増加する可能性があるため、利用目的に合わせ、利用しやすいルート、交通手段、運行形態の維持、確保を目指した。

### ●主な取り組み

平成31年4月1日 デマンド中原、上原の定時定路型から自由経路型へ見直し(利便向上)

効果・考察 見直し以降毎年利用者数が増加しており一定の効果があった。

令和2年4月1日 デマンド小坂、馬瀬の運行開始(路線バス廃止代替)

効果・考察 市民の日常生活の足としての役割を果たしている。

令和4年4月1日 コミバス金山、デマンド金山の利用が少ないコミバス時間帯をデマンドへ便数見直し(利便向上)

効果・考察 コミバス・デマンドのトータル利用者数は減少しており、効果はあまりなかった。

令和6年4月1日 デマンド馬瀬のドアツードア型へ見直し予定(利便向上)

目標・見込 よりドアツードアに近い運行形態を行い、利用者満足度の向上を見込む。

### ●実績(利用者数)

単位:人	H30	R1	R2	R3	R4	考察
コミバス下呂	45,119	41,313	33,752	35,553	36,009	人口減による利用者減少
コミバス萩原	58,538	51,547	47,376	46,440	44,681	人口減による利用者減少
コミバス金山	39,179	36,499	29,701	17,481	14,175	人口減による利用者減少
デマンド金山	3,127	2,978	2,298	2,031	2,753	R4便数見直しの影響が大きい
デマンド上原	126	188	242	272	291	本路線の利便性が認識されつつある
デマンド中原	520	805	857	842	1,117	本路線の利便性が認識されつつある
デマンド小坂	-	-	2,774	2,426	2,228	本地域内での運行に限界を感じる
デマンド馬瀬	-	-	7,998	2,171	2,239	R3スクール分離・横ばい傾向

### ■まめなカーのサービス維持

市内各地域(下呂・萩原・金山地域)において介護認定、障がい者手帳を持っている方を対象にタクシー車両を利用した乗合型移動サービスで、平成30年4月より本格運用しています。会員登録(無料・無期限)を行い最大5か所の目的地を登録でき、自宅との距離に応じて算定された利用料金を利用者が支払う事業

### ●実績

令和4年度の運行実績は運行回数については月平均190回、実利用者数は月平均55人であった。新型コロナにより減少傾向であった利用者数も徐々に回復傾向にある。

(参考:令和元年度実績・運行回数月平均215回、実利用者数月平均51人)

また、本事業周知活動においては包括支援センターや介護支援相談員(ケアマネージャー)などの関連組織との連携により、無料・無期限の会員登録制度も相まって登録者数の増加につながっている。

	H30	R1	R2	R3	R4	考察
登録者数:人	270	319	358	401	446	包括支援センター等との連携により増加傾向
延べ利用者数:人	2,776	2,841	2,099	2,166	2,290	コロナ以前よりも利用回数の抑制傾向
運行距離:km	11,327	10,604	7,450	8,692	10,431	遠方の利用が増加傾向

### ●効果・考察

バスよりも利用料金は高いものの、一定の固定利用者が存在し、有効的に活用いただいていると感じている。コミュニティバス、デマンドバスでは賄い切れていない部分を福祉乗合型タクシーが埋めていると感じている。

会員増加・利用促進の面においては、包括支援センターなどと連携を図ることにより着実に増加している。また、介護ステージが初期の段階の方にも積極的に登録いただき、いざという時のための移動の安心を与えていると感じている。

一方で単独乗車がその利用のほとんどを占めており、乗合型のメリットが生かしきれていないのが課題である。

## ■ 目標1: 市内外に行きやすい公共交通ネットワークをつくる。

目標値: 市内外を結ぶ運行サービスの維持・強化

評価指標	現況値: 策定時	目標値	達成状況	
市外との運行便数 (平日)	JR: 片方向21便 濃飛バス: 下呂高山線片方10便	維持	JR: 片方向21便 濃飛バス: 下呂高山線片方11便	○

考察: 幹線交通については、目標を達成できたが、今後人口減少、2024年問題等にどう対応していくか検討が必要

## ■ 目標2: 市民が利用しやすい公共交通とする。

目標値: 市民の満足度向上

評価指標	現況値: 策定時	目標値	達成状況	
市民の満足度 (アンケートによる)	58.3%	70%	2019未実施、2024に実施予定	—

考察: 令和6年度に実施予定である。確実に実施し次期交通計画策定に生かしたい。

## ■ 目標3: 関連分野(福祉・教育・観光施策)との連携を強化する。

目標値: 公共交通の利用者数維持

評価指標	現況値: 策定時	目標値	達成状況	
公共交通の 利用者数	186,845人 コミバス、デマンド、まめなカー合計	維持	105,783人(R4)	×

考察: 認知度の向上、利用者の求める支線交通ネットワーク形成に努めたい。

## ■ 目標4: 地域住民・関係者(行政・社協・民生委員等)が一体となり、公共交通の維持・確保を図る。

目標値: 地域との取組み進展

評価指標	現況値: 策定時	目標値 2024年度	達成状況	
地域が参画した 取組実施数	地域交通の周知や 利用促進の取組 0	3地区	地域交通の周知や 利用促進の取組 0	×

考察: 新型コロナにより地域が参画した取り組みを実施できなかった。



### ■目標1: 市内外に行きやすい公共交通ネットワークをつくる。

#### 【到達状況】

現状維持の目標を達成している。

#### 【今後の取組】

人口減少、新型コロナにより利用者数は減少しているものの目標を達成しており、今後も維持できるように利用促進に努めたい。公共交通を利用したお出かけイベントなどに取り組みたい。

### ■目標2: 市民が利用しやすい公共交通とする。

#### 【到達状況】

令和6年度第2四半期に市民満足度調査を実施予定であるためわからない。

#### 【今後の取組】

新型コロナ等により市を取り巻く情勢が大きく変化している。市民満足度、意見収集を積極的に行い、公共交通会議、地域分科会や関連分野との情報共有を図り、現状にマッチした交通ネットワークの形成を図りたい。

### ■目標3: 関連分野(福祉・教育・観光施策)との連携を強化する。

#### 【到達状況】

現状維持の目標を達成できていない。

#### 【今後の取組】

新型コロナにより利用者数が大きく減少し、コロナ禍以前の状態を維持することができなかった。今後は各分野移動施策の認知度向上、利便向上を図るため、課題共有、情報交換、連携に取り組みたい。

### ■目標4: 地域特性に応じた運行形態を検討する等、地域住民・関係者(行政・社協・民生委員等)が一体となり、公共交通の維持・確保を図る。

#### 【到達状況】

地域単位での交通会議を開催したものの、連携した取組みを展開するに至っていない。

#### 【今後の取組】

各地域におけるニーズを把握し、地域の状況に応じた交通ネットワークを形成できるよう積極的に地域と対話し、地域と連携したお出かけイベントを実施し周知活動を実施したい。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回			
		該当なし	
前々回			

※前回：令和 年 月 日、前々回：令和 年 月 日

## ■計画における事業実施スケジュール

項目	年 度						
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
公共交通会議の開催	●	●	●	●	●	●	●
公共交通会議 地域分科会の開催（4回/年）	●	●	●	●	●	●	●
利用者数等の把握	●	●	●	●	●	●	●
アンケート調査		●					●
実施事業の評価・改善	●	●	●	●	●	●	●
計画の改訂				▲ 中間見直し			●

## ■下呂市地域公共交通会議の実施状況

## ●令和4年度

- 令和4年 8月17日 第1回下呂市地域公共交通会議
- 令和4年12月 8日 金山地域分科会(地域内バス運行に関する意見収集)
- 令和5年 1月18日 馬瀬地域分科会(地域内バス運行に関する意見収集)
- 令和5年 2月28日 第2回下呂市地域公共交通会議
- 令和5年 3月 3日 小坂地域分科会(地域内バス運行に関する意見収集)

## ●令和5年度

- 令和5年 8月17日 第1回下呂市地域公共交通会議
- 令和6年 1月19日 馬瀬地域分科会(地域内バス運行に関する意見収集)
- 令和6年 2月 7日 小坂地域自治会長との意見交換(地域内バス運行に関する意見収集)
- 令和6年 2月 9日 金山地域自治会長との意見交換(地域内バス運行に関する意見収集)



＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

下呂市(区町村)地域公共交通計画の評価等結果(4年4月～5年12月)

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
市内外に行きやすい公共交通ネットワークをつくる	幹線交通の運行維持・向上、支線交通の運行形態の見直し	既存データの整理	JR：片方向21便 濃飛バス：下呂高山線片方11便 計画策定時を維持し達成している。	現状維持できるよう交通ネットワークの検証、改善に取り組む	
市民が利用しやすい公共交通とする	まめなカーのサービス維持、支線交通の運行形態の見直し	市民アンケートの実施	-	-	R6年度に実施予定
関連分野との連携を強化する	バス利用支援施策の継続、支線交通の運行形態の見直し、まめなカーのサービス維持、民間事業者との連携による利用支援	既存データの整理	R4実績：105,783人 利用者数の維持の目標を達成できず	地域代表者や民間事業者と連携強化をはかり、利用者増加を図りたい。	
地域と連携した取組みを展開、拡大する	民間事業者との連携による利用の支援、地域公共交通の情報提供の促進、観光客向けの公共交通情報発信	既存データの整理	R4地域が参画した取組数：0件 取組みが実施できず目標を達成できず	下呂市内公共交通において不足している部分を民間事業者等と情報交換を行い改善を図りたい。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(○年○月～○年○月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果(議事録等)等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評